

建設機械・各種トラックの売買・輸出・リースのことならディーゼル通商へ

■ 今月のディーゼルレポート DIESEL report

Meetsプラス第3号は、建設機械が生まれてからの、簡単な特徴・歴史のお話です。

建設機械と言う総称は、土木、建築工事に使われる機械の事で、工事機械とも言われます。建設工事の種類も、道路、鉄道、港湾、空港、上下水道、発電所、工場、ビル建築など広範囲にわたります。建設機械もこれらの工事の多様性に対応し、数多くの種類があります。

歴史的には、ピラミッド、万里の長城、仁徳天皇陵など、建設工事は古くから行われていました。その施工技術に、くわ、スコップ、荷車、滑車、てこ、ころ、などがあり、重量物を運ぶには道路にころを敷き引っぱっていました。重い物を持ち上げるには滑車が使われました。15世紀にドイツで船の荷物の積み下ろしに使われたクレーンは、今日のクレーンの原形とも言われるようです。この頃のクレーンは、まだ人力もしくは畜力のものでした。

16世紀になると、建設機械が数多くみられ、重く長い柱を持ち上げるためのジャッキ、滑車などを数多く取り付け少ない力で重い物を持ち上げる装置が使われていました。18世紀終わりには、建設機械の動力として蒸気機関が使われるようになりました。19世紀には鉄製の建設機械が登場。1920年代には動力機械として、内燃機関、電動機が使われ、建築、土木機械は19世紀半ば頃よりアメリカにおいて開発が進みました。日本においては、江戸末期に欧米から輸入されたのが、建設機械の利用の最初だそうです。日本で建設工事が機械化したのは1897年頃で、蒸気式の建設機械が輸入使用され、1920年頃から内燃機関、電動機が使われるようになりました。今日見られるような大型建設機械が日本に登場したのは、第二次世界大戦以降。1950年頃からブルドーザー、ショベル系、ミキサー車、ポンプ車などが国産化され普及し、今日に至ります。

■ おすすめ在庫機 recommend stock



KOMATSU
PC300-7E0
2006y **¥11,800,000**



HITACHI
ZX200-3
2006y **¥7,300,000**



SUMITOMO
SH75X-3
2004y **¥3,000,000**



KOMATSU
WA80-3
1997y **¥2,300,000**



CAT
303CR
2001y **¥1,350,000**



UD トラクタ
ADG-GK4XAB
H20 **¥7,900,000**



ISUZU クレーン付
KL-FTR34L4
H13 **¥4,300,000**



ISUZU ウイング
PA-FRR34L4
H16 **¥3,200,000**



ISUZU ダンプ
KC-CXZ81K2D
H10 **¥2,900,000**



ISUZU ダンプ
KK-NKR66ED
H13 **¥900,000**

■ 担当者より staff message

その他多数在庫取り揃えています！

はじめまして。今回のmeetsプラス第3号担当の営業部の田中です。簡単な自己紹介をさせていただきます。大阪府出身の43歳。以前この業界に入る前は、みなさん好きな方も多いかと思いますが、俗に言うスーパー銭湯（風呂屋のおっさん）で勤務していました。毎日、何百回も「いらっしゃいませ、ありがとうございます。」とやっていました。その頃のお客様に接した様々な経験が、今少しは役立っているような気がします。お酒の付き合いは断りませんよ？今後とも宜しくお願いします。

海外レポートは裏面へ！

まずはお気軽にご連絡ください！ TEL 0725-33-8989



建設機械・トラック・売買・輸出・リース
ディーゼル通商株式会社

本社 〒595-0024 大阪府泉津市池浦町4丁目3-31
小間清実業ビル2F
岸和田ヤード 〒596-0105 大阪府岸和田市内畑町1758-1

当社ホームページにて取扱在庫も確認いただけます

<http://diesel-trading.jp/>

TEL 0725(33)8999 FAX 0725(33)8999

Email: info@diesel-trading.jp

Thailand

毎回、違った地域からの海外レポートをお届けします。

今回はタイについてレポートします。

タイ経済 日本とのつながりと高い経済成長

タイは、東南アジアに位置する立憲君主制国家で、東にカンボジア、北にラオス、西にミャンマーとアンダマン海があり、南はタイランド湾とマレーシアに囲まれた国です。

経済の安定や外国企業の積極的な進出を背景に、1980年代以降の高度経済成長はすさまじく、1985年から1995年にかけての10年間、タイは年間平均9%の経済成長率を記録しました。しかし、1997年のアジア通貨危機によって経済は停滞し、経済規模は10.2%も悪化したものの、その後、外国への輸出を積極的に行ったことから、1999年経済成長率は再び4%台を記録、2003年には6%台を記録し好景気に転じました。2010年タイのGDPは約3126億ドル(約25兆円)で実質GDP成長率は7.9%となっています。

2008年には1,300社近い日本企業が進出しており、また2007年11月に日タイ経済連携協定が発効されたことから、物品の貿易に関しては最終的には日本からタイへの輸出貿易額(2004年)の約97%、タイから日本への輸出貿易額(2004年)の約92%の関税が撤廃される予定で、貿易のみならず、投資や政府調達など幅広い分野における経済関係の一層の強化が期待されています。

建設工事プロジェクト 大規模建設による建機需要到来への期待

タイ政府の新しい建設プロジェクトは、予算約42兆円となっています。

11件の大規模建設プロジェクトが入札を開始すると予想され、この中でも1番大きいプロジェクトが、タイ国家鉄道公社(SRT)によるインフラ開発で予算約4,761億円に相当します。これは、バンコクからマレーシアに延びる幹線鉄路から新港湾へのアクセス支線の整備、幹線鉄路の複線化を行なうものであり、チャチェンサオ、サラブリーにあるケンコイなどの大規模な鉄道改修工事も含まれているものです。

2番目に大きいプロジェクトは、バンコクからラオス国境近くのノンカイを結ぶ高速列車鉄道開発が予算約4,039億円となっており、タイ政府と中国政府による共同開発の概要がまとも次第、今年末から来年初めにかけて入札が始まる予定です。

また、11件のプロジェクトのうち5件が公共輸送機関の開発となっており、バンヤイとバンスー地区を結ぶ新たな路線ルートの開発計画(予算約98億円)、首都圏東部ベリンとサムットプラカン間を結ぶ路線ルート開発(予算約498億円)などの計画があります。

この他にも、スワンナプームバンコク新国際空港拡張計画(予算約1,684億円)は、現在の4,500万人から6,000万人への乗客増加を見込み、2016年に完工するとみられています。



しかしながら、石油や鉄、銅の価格高騰を受け、建設資材が5~10%値上がりし、さらに人件費も値上がり傾向であるため、少しでも経費を抑えるために、業者は建設機械を投入したり、外国人労働者を増やしたりして対応を強いられている現状があります。

このように、現在タイでは大規模建設が次々と控えており、ミャンマーなどの近隣諸国のインフラ開発にも積極的に参加していることから、政治が安定した上で着実に実施されれば、建設部門が大変な利益を生み出すことが出来る見通しがあり、建機業界にとっても明るい展望が見込まれています。



建設機械・トラック・売買・輸出・リース

ディーゼル通商株式会社

本社 〒595-0024 大阪府泉津市池浦町4丁目3-31
小間清実業ビル2F

岸和田ヤード 〒596-0105 大阪府岸和田市内畑町1758-1

当社ホームページにて取扱在庫も確認いただけます

<http://diesel-trading.jp/>

TEL 0725(33)8999 FAX 0725(33)8999

Email: info@diesel-trading.jp